

水稻硫黄欠乏対策による収量改善実証ほを設置（世羅町）

【平成30年5月22日掲載】

5月9日、世羅町の（農）穂MINORI（代表理事 宇坪 實（うつぼみのる）、組合員4名、水稻作付面積50ha）で、水稻硫黄欠乏対策の実施による収量改善効果を確認する実証ほの設置を行いました。

当該法人は平成24年の法人設立以降、水稻収量の伸び悩みに課題を抱えていました。毎年10ha余りの急激な規模拡大のため、田植えなど栽培管理の遅れがこの要因ではないかと思われていましたが、東部農業技術指導所が共に各種調査を進めた結果、水稻の生理障害の一つである硫黄欠乏によって初期生育が極端に抑制され、減収を招いていることを明らかにしました。

今回設置した実証ほは、この硫黄欠乏対策として、育苗培土メーカーの協力を得ながら、硫黄供給源となる石膏を事前混和（80g/箱）した育苗培土を利用して「硫黄欠乏の対策実施を行った苗」と「未実施の苗」、2種類の苗を同一ほ場へ移植し、対策の有無による収量改善効果の検証をするものです。当該法人関係者は、本田追肥よりも省力・低コストな育苗培土への石膏混和处理による収量改善効果に期待を寄せています。

水稻における硫黄欠乏はまだ十部認知されておらず、当指導所では指導者への本障害の認知と効果的な改善対策の早期確立に向け、6月下旬を目途にこの実証ほを活用して、水稻硫黄欠乏の検討会を開催することとしています。



左：床土石膏混和处理苗
右：無処理苗



8条毎に処理苗，無処理苗を移植